

順調に生育し収穫

～大豆刈り取り作業順調～

J A管内では、10月中旬から大豆の刈り取り作業が始まりました。水田の転作作物として、17組織と生産者11人が約356畝作付けし、約627トンの出荷を計画しています。

田舎館基幹支店管内の農事組合法人大根子（工藤榮治代表理事組合長）では10月27日、大豆「おおすず」の収穫作業を行いました。

工藤組合長は「播種（はしゅ）後の降雨が多かった影響で、作業計画を変更する必要があった。大変苦労したが、雑草対策も上手くいき、生育も順調に進んだ」と話しました。



大豆を収穫するコンバイン

おいしい米作り競技会で研さん

～良食味米競技会～

ときわ良質米生産部会（三浦浩二部会長）は10月21日、常盤基幹支店で良食味米競技会を開きました。部会員15人が令和2年産米の審査を行いました。生産者の栽培技術の向上と品質の高位平準化を目指します。

「青天の霹靂」「つがるロマン」「まっしぐら」などの玄米サンプルが38点（1点300g）出展。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、マスクとフェイスシールドを着用し、穀粒判別機と食味計による分析や目視による品位鑑定など同部会審査要領に基づいた採点方式で審査しました。



審査を行う部会員

自粛の芋掘り職員が収穫

～わんぱく農園さつまいも収穫～

尾上基幹支店管内にあるわんぱく農園では、平川市立金田小学校の児童と日の出こども園の園児が、毎年さつまいも苗の植え付けや収穫作業を体験しています。今年は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、子どもたちの収穫体験が中止となったため、営農課と尾上基幹グリーンセンターの職員10人が子どもたちの代わりに収穫作業を行いました。

職員は、約10畝の圃場からフォークやスコップでさつまいもを掘り起こし、傷をつけないよう丁寧に収穫しました。収穫したさつまいもは乾燥後、同小学校とこども園に届けました。

職員は「子どもたちは、収穫作業ができずとても残念な気持ちだと思う。さつまいもを食べる時に、春に植え付けしたことを思い出しながら食べてほしい」と話しました。

12月からは、子どもたちがさつまいものつるでアレンジしたリースなどを尾上基幹支店に展示する予定です。



さつまいもを収穫するJ A職員